

安全データシート

整理番号【623-2】

制定日 2014/04/18

改訂日 2022/05/24

1. 化学品及び会社情報

化学品

化学品の名称 クールリフレ コールドスプレー フローラルウッドイ

供給者情報

会社 サラヤ株式会社

住所 大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門 営業本部

電話番号 06-6797-2525

緊急時連絡番号 06-6705-1013

推奨用途及び使用上の制限: 衣類用冷却剤

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類:

物理化学的危険性:

エアゾール: 区分1

健康有害性:

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分2A・2B

生殖細胞変異原性: 区分1B

生殖毒性: 区分1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分3(気道刺激性)

区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(肝臓)

区分2(中枢神経系)

GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

極めて引火性の高いエアゾール/強い眼刺激/

遺伝性疾患のおそれ／生殖能又は胎児への悪影響のおそれ／
呼吸器への刺激のおそれ／眠気またはめまいのおそれ／
長期又は反復暴露による肝臓の障害／
長期又は反復暴露による神経の障害のおそれ

注意書き:

【安全対策】

すべての安全対策を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙

この製品を使用する時に、喫煙しないこと。

加圧容器:使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。

裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。

屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

静電気放電や火花による引火を防止すること。

個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合:空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合:多量の水と石けんで洗うこと。

衣類にかかった場合:直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

暴露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い場合は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

【廃棄】

内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に
業務委託すること。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:混合物

成分:

液化天然ガス(LPG)

エタノール

その他の添加物

.....
.....
CAS No. : 液化石油ガス(LPG) 68476-85-7

エタノール 64-17-5

官報公示整理番号: エタノール (2)-202

4. 応急処置

吸入した場合:

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師を呼ぶこと。

皮膚に付着した場合:

皮膚を速やかに洗浄すること。

皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。

眼に入った場合:

水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

洗浄を続けること。

飲み込んだ場合:

速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状:

眼の発赤、痛み、灼熱感、皮膚の乾燥、吸入による咳、頭痛、疲労感、し眠

及び飲み込みによる灼熱感、錯乱、頭痛、めまい、意識喪失、皮膚に触れた場合の

凍傷など

応急措置をする者の保護に必要な注意事項:

火気に注意する。保護マスクがあればそれを着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤:

小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤

大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性消火剤

使ってはならない消火剤:

棒状注水

火災時の特定の危険有害性:

極めて燃え易い。熱、火花、火炎で容易に発火する。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって、刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

引火性の高い液体及び蒸気。

特有の消火方法:

散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。

散水以外の消火剤で消火の効果がでない大きな火災の場合には散水する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置：

消火作業の際は適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止措置及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項：

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収・中和：少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることはできないおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

危険でなければ漏れを止める。

漏洩物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止策：

全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い：

技術的対策：

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項：

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、喫煙しないこと。
接触、吸入又は飲み込んではいない。
眼に入れてはならない。
スプレーを吸入しないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避:

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

安全な保管条件:

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙
冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料で
ふき、かつ、天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が侵入し、又は浸透しない構造とすること。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、
かつ、適切な溜升を設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱う為に必要な採光、
照明及び換気の設備を設ける。

安全な容器包装材料:

高圧ガス保安法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8.ばく露防止措置及び保護措置

許容濃度等:ノルマルブタンとして 500ppm

ACGIH:液化天然ガス(LPG) 800ppm , エタノール 1000ppm

設備対策:防爆仕様の局所排気を設置する。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保護具:呼吸器の保護具 :適切な呼吸器の保護具を着用すること。

手の保護具 :適切な手袋を着用すること。

眼の保護具 :適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具:適切な顔面用の保護具を着用すること。

体を覆う衣服以外に予防措置は無い。

9.物理的及び化学的性質

物理状態:液体

色:無色透明

臭い:エタノール臭及び特有の芳香を僅かに有する。

沸点又は初留点及び沸騰範囲:情報なし

可燃性:情報なし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:情報なし

引火点:13°C (噴射剤LPGを除いた状態)

自然発火点:392°C (噴射剤LPGを除いた状態)

分解温度:情報なし

pH:情報なし

動粘性率:情報なし

蒸気圧:0.39 MPa

密度及び/又は相対密度:0.79(噴射剤LPGを除いた状態)

相対ガス密度:情報なし

粒子特性:情報なし

10.安定性及び反応性

反応性:火花、裸火により発火。

化学的安定性:火花、裸火により発火。

危険有害性反応可能性:強酸化剤を激しく反応し、発火又は爆発の危険性がある。

避けるべき条件:高温、火花、裸火、混触危険物質との接触

混触危険物質:強酸化剤

危険有害な分解生成物:燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素

11.有害性情報

急性毒性:

エタノールとして

経口 ラット LD50 6.2-17.8 g/kg

経口 ラット LD50 > 5g/kg

経口 ラット LD50 13.7 g/kg

経皮 情報なし

吸入(蒸気)ラット LC50 20000ppm/10h

吸入(ミスト)ラットLC50 63000ppm/4h

ノルマルブタンとして

吸入(ガス)ラット LC50 277374ppm/4h

皮膚腐食性/刺激性:

エタノールとして

OECD TG404 試験 ラビット not irritating

American guidelines ラビット not irritating

眼に対する重篤な損傷/刺激性:

エタノールとして

OECD TG404 試験 ラビット moderate

ドライズ法 ラビットguidelines moderately

ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1、2日間で回復する。

強い眼刺激(区分2A-2B)

ノルマルブタンとして

ウサギの眼を刺激しない。ヒトのガス暴露例に眼刺激性は報告されていないが、明確に有害性を否定する報告も無い。

呼吸器感作性又は皮膚感作性:

呼吸器感作性:データなし。

皮膚感作性:

エタノールとして

動物試験での有意の皮膚感作性は見られない。

ノルマルブタンとして

データなし。

生殖細胞変異原性:

エタノールとして

ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウスの生殖細胞における異数性誘発の報告がある。

遺伝性疾患のおそれ(区分1B)。

ノルマルブタンとして

細菌を用いるin vitro 復帰突然変異試験で陰性。

発がん性:

エタノールとして

ACGIHは、主として作業環境での有害因子としてエタノールをA4 (ヒト発癌性に分類できない物質)に分類している。

ノルマルブタンとして

データなし。

生殖毒性:

エタノールとして

アルコールの習慣的な大量摂取によるヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ(区分1A)。

ノルマルブタンとして

データなし。

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

エタノールとして

ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に急性中毒作用を及ぼし、死に至ることがある。

ヒトで5000ppm(9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。

呼吸器へ刺激の恐れ(区分3)

眠気又はめまいのおそれ(区分3)

ノルマルブタンとして

ヒトの高濃度吸引で麻酔作用又は中枢神経系抑制を示す。麻酔作用があると考え、区分3とした。

眠気又はめまいのおそれ(区分3)。

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

エタノールとして

区分1(肝臓)、区分2(神経)

ノルマルブタンとして

データ不足の為、分類できない。

誤えん有害性:データなし。

12.環境影響情報

生態毒性:情報なし

残留性・分解性:情報なし

生態蓄積性:情報なし

土壌中の移動性:情報なし

オゾン層への有害性:情報なし

水生環境急性有毒性 : 区分外

水生環境慢性有毒性 : 区分外

13.廃棄上の注意

化学品, 汚染容器および包装の安全で, かつ, 環境上望ましい廃棄, またはリサイクルに関する情報「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

残余廃棄物:廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

使用済容器:関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14.輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

国際規制

国連分類: 区分2.1 (引火性ガス)

国連番号: 1950

国連品名 : エアゾール

輸送の特定の安全対策及び条件:

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、移動、転倒、衝撃、摩擦などを生じないように固定する。

重量物を上積みしない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令

労働安全衛生法(安衛法): 名称等を通知すべき有害物

船舶安全法: 引火性液体類

航空法: 引火性液体

毒物及び劇物取締法: 該当しない

消防法: 危険物第4類引火性液体 アルコール類

高压ガス保安法 :

16. その他の情報

- ・本SDSはJIS Z 7253:2019に準拠しています。
 - ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 - ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 - ・注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
 - ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-